

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

September 2015
Vol. 37

毎月10日発行

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【曙口教室】 鶴見区曙口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-172F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467



天才!ギター少年(13歳)in熊本 高木 秀章(塾長)

7月、熊本に出張した夜・・・ライブハウスで驚きの13歳に会いました。

彼の名前は、AKIRA君。(本名は伏せます)日本国内でロックギターの神様と言われているChar(チャー)さんから、誕生日にギターをプレゼントされる程に才能を認められ、先日も東京の日比谷野音のステージでセッションした程の腕前と才能の持ち主です。

これだけ書くと、「なんだ、たまにはそんなスゴイヤツがいるよ」、「才能があるからでしょ」、「関西にも有名なギター少年がいるよ」等と言われてしまいそうですが、驚いたのは腕前や才能ばかりではない、13歳の彼の態度や言動です。一言で言うと、大人よりも謙虚でしっかり受け答えしていて、既に【自立】を始めているということがわかることです。

彼のお父さんが、ライブハウスを経営されていますので、小さい頃から音楽の中で育ち、元バンドマンのお父さんの影響を受けて、英才教育もあったのかもしれませんが、しかし、音楽やギターが嫌いだったら・・・あの腕前になるはずがありません。しかも、お父さんと一緒にステージで演奏している時に、楽しんでいることが手に取るようにわかるのです。

子供達の好きという感情や楽しいと感じる環境が、技術的なことも、才能も開花させていることに、一教育者として、学校教育とは

異なる家庭教育の原点を感じたのです。演奏が始まる前に、彼とお父さんがテーブルで話してくれたのですが、彼は「数学が苦手」と苦笑いし、勉強のこともおそろかにはしていませんでした。又、お父さんは、「ギターは、テクニクではない」と話されていて、天才等と呼ばれていることよりも、音楽やギターを通して、きちんとした大人へ成長してほしいということをお話されていました。

子供達は可能性の塊。このことを改めて実感しました。子供達は何にでもなれる・・・そう思わずにはいられない程の感激でした。

ところで、ロックという音楽は、どんなイメージでしょうか?

私も音楽は詳しくないのですが、どちらかと言えば男の子よりの音楽で、多少乱暴な感じもしますし、ロックミュージシャンのスタイルは、自由さを感じます。

ところが、AKIRA君は・・・私達に常に敬語でした。態度は、非常に礼儀正しく素直さが感じられます。家庭の躰が行き届いている証であり、その躰がいかに大事なことなのかを本人が自覚していることが感じ取れました。髪型も普通であり、服装も一般的な13歳、贅沢や華やかな服装はしていないことから、本人の性格が読み取れました。ちなみに、私達がお店を出る少し前のこ



と・・・彼の噂を聞いたおじさん2人が「天才がいる店ってここかー」と入ってきました。ギターを弾くAKIRA君の姿に仰天しながら、このおじさん達の一人は踊り始め、もう一人のおじさんは歌い始めました。AKIRA君とお父さん、踊るおじさんに歌うおじさん、初対面の人たちと見事に音楽で対話している様子が、見ている私からももうれしいというかほほえましいというか、非常に素敵な場面でした。

家族で経営しているライブハウスでお父さんやお母さんの働く姿を肌で感じながら、そこに出入りする大人達に見守られ豊かな社会性を身に付け、何より音楽を通して言葉以上に深い対話を大人達と交わして暮らしている。彼の毎日の経験は深く濃い。このような環境が彼の才能をさらに磨いていくのだろうと思います。

「子供達の可能性は、無限大∞」、そう考えずにはいられない経験でした。



CLASSROOM REPORT 教室レポート

夏期講習 テーマは「やり切る！」

熊谷 周作 (関目教室)

この記事を書いている現在は、夏期講習第3タームです。受験学年の中学3年生は、お盆休みの前に行われるプレ模試の対策学習で、連日、朝から夜まで自習に来る子の姿が見られます。

このプレ模試は、午前中より昨年の模試過去問を演習し、採点・偏差値・順位を割出し、午後には解説授業を行います。このテストは生徒達にとって、夏期講習の中間成果を知る大切な機会になり、私達講師にとっては、生徒達の弱点箇所の把握や、答案作成の完成度の確認を行い、最後の追い込みになる第4タームの方針を決める材料になります。

今年度の夏期講習で全学年、最も意識しているのが、講習会を通してやり切る項目をチェックリスト化して、管理しながら進めている点です。やはり、授業を聞いているだけでは成績は伸びません。各授業では小テストが実施され、これが合格点になるまで反復していきます。合格できなければ、居残りもしくは補習日に来て合格しなければなりません。



▲生徒達のやり切りを管理する「やり切りシート」

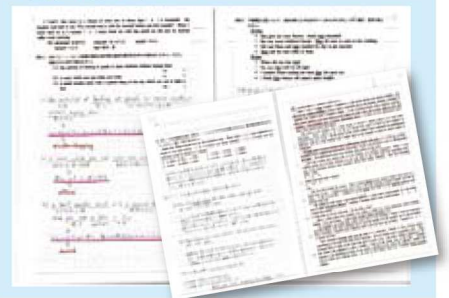
力は確かについて行きますが、なかなかハードです。しかし、生徒達のポジティブさはさすがです。不合格のことを「借金ができたり」などと言って、楽しんでいる生徒達もいます。

中学3年生は、上記の方法で単元学習を進めた後で、模試過去問や私立入試問題による演習指導を行います。模試や入試問題には、当然ですが中学3年間の全ての学習内容が入っています。よって、きちんと間違い直しをすれば、それだけで3年間の総復習ができます。実力をつける上でこれ以上のトレーニングはありません。そして、この実践演習をさらに意味のあるものにしてくれるのが、間違い直しノートです。このノートには、間違い直しから派生し、自分が間違えそうな内容や知っていた方がよい内容を調べてどんどん書いていきます。この調べ学習が成績アップのポイントです。これをきちんとやっている生徒は実がつく手ごたえをしっかりと感じているはずで

生徒達にはよく話すことですが、「義務感で学習しているのか」「成績を伸ばしたいという目的意識をもって学習しているのか」で、同じ内容をやっても伸び方は全く違います。先生達は、どうせやるなら、最終日の模擬試験偏差値を全員自己ベストにしたいと考えています。

最後になってしまいましたが、関目教室の様子を紹介しておきたいと思います。関目教室では小田先生が新教室長になり、数学で過去素晴らしい実績をお持ちの福井先生、社会のスペシャリストの倉田先生(とにかく授業

▼関目生の間違い直しノート



が熱い)を迎え新メンバーで指導にあたっています。これは、あくまでも私の所見ですが、講師陣のレベルがものすごく高い。そして、実はこの強者の中で常にトップクラスの結果を出しているのが、学生の小幡先生です。小幡先生の理科は塾長と常にデッドヒートになっています。私としても、このような先生たちの中で指導できることが、励みになりますし、勉強にもなります。

また、これも私から見てもですが、生徒達もよく頑張っていると思います。冒頭にも述べたように朝から自習に来る生徒達もたくさんいます。ただ、私から敢えて話しておきたいことは、その努力のベクトルが自分に向いてほしいと切に願います。宿題があるから、親や先生がうるさいからではなく、「私はあの学校に絶対行きたいから」という自分のためのベクトルに。そういう生徒は、ブレません。芯が通った強さがあります。私は生徒達のその真剣な顔が大好きです。



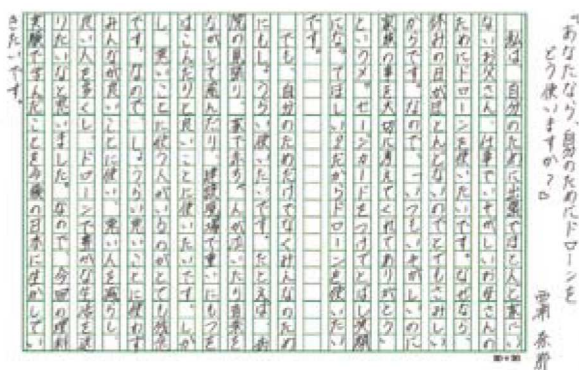
Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

話題のドローンについて考えました。

熊谷 真宏 (今福教室)



今年の夏期講習会の理科実験では、小学6年生を対象に新たな試みを行いました。いま世の中で話題になっている、「ドローン」を用いた実験です。この実験の目的は、実際に本物のドローンを操縦してもらい、ドローンのメリットやデメリットを理解した上で、世の中でどんな風に役立つか、そして自分だったらどのように利用するか考えてもらうことで、多面的に考える力を伸ばそうというものです。

まずは、パワーポイントとスクリーンを使用して、「ドローンとは何か?」について講義を行いました。元々ドローンは軍事用に開発されたものである事実があります。この事実だけを見て考えると、「ドローンって悪いものなんだな」という結論になってしまいます。実際、子供達も最初はそう感じていたようです。しかし、ドローンが現在どのように利用されているかを知ることによって、その考えは一変します。ドローンは畑での農薬の散布や、工事現場の高所などの危険な場所における作業を行うなど、様々な使われ方をしています。これは世の中の全てにおいて言えることですが、使う人間の目的と使われ方次第で、物は良くも悪くもなるものです。つまり、物事には必ずメリットとデメリットがあるということを、子供達は学びました。

その次に、今度は実際に教室内でドローンを作成して飛ばしてみました。ほとんどの子供達がドローンを生で見るのも飛ばすのも初めてだったので、みんな目がキラキラしていました。いざリモコンを持って操作してみると、想像していたよりもはるかに難しいことを知り、そして大切なポイントに気が付きます。「え、こんなに操作が難しいのに外で飛ばして大丈夫?」「あ、だから公園で飛ばしたらダメなのか」ニュースでも取り上げられています。現在ドローンを直接規制するための法律は存在しません。しかし、自治体によってはドローンを規制するために様々な取り決めを行っています。大阪市では、市内980か所の公園でのドローンの使用が禁止されています。これは、公園条例で禁止されている「他人に危害を及ぼすおそれのある行為」にあてはまるからです。国としても、「ドローン規制法」というものを制定しようと現在動いているところです。こういう世の中の動きを、子供達に肌で感じてもらうことができました。

その後、今度はグループごとに分かれてディスカッションを行いました。テーマは、「世の中の役に立つ新たなドローンの利用方法について」です。各グループごとに議長、書記、発表者を決め、各々の意見をぶつけ合

ていました。グループごとの発表では、素晴らしいアイデアがたくさん出ました。例えば、病院内をドローンで巡回させて、異常がないかどうかを調べさせるという利用方法。この方法ならば、深夜の時間帯の人員を削減できます。また、サーモグラフィーカメラを積んだドローンで、事故現場での遭難者などの発見に役立てるというアイデア。ただのカメラではなく、サーモグラフィーという点に着眼したのは、すごいと思います。これならば人間が立ち入ることが難しい場所でも、早期に発見することが可能となり、より多くの命を救うことができるかもしれません。子供達の発想力には本当に感心させられました。

最後に、「ドローンを自分のためにどのように利用するか」というテーマで作文を書いてもらいました。実験の中で学んだことを活かしながら、自分なりの考えをしっかりと書いてくれました。学んだ知識を複合的に結びつけながら、自分の考えを展開する。まさしく活用型の問題です。これからの未来を担っていく子供達に、たくましく生きていくための力をつけて、幸せな人生を歩んでいって欲しい。そのために、常に先を見据えた方法で、カイチの先生達が一丸となって、みなさんを全力で指導していきますので、よろしくお願ひします。

Topic

COLUMN: 先生紹介 ▶ 花田 敦臣 (今津教室)



こんにちは
今津教室の花田
です。

私は珠算と
パスカルを担
当させていた
だけ、パスカル
では初めに読
書の時間を取

り入れています。私も本が好きで今までに
色々読んできましたが、実は最近ほとんど
手をつけていません。

そこで本について書かせていただき、私自身
も本の楽しさを思い出せたらと思います。

学生の頃はミステリーの赤川次郎、SFの
眉村卓をよく読んでいました。どちらもテンポ
があって読みやすく、主人公は学生が多いの
でヒロインになりきって読んでいました。

社会人になってからは、なぜこの本なのかは
覚えていませんが、通勤中に井伏鱒二の「黒
い雨」、広島で被爆した家族の話で3回は読
んでいます。他にも「すばらしいよ」と先輩に
薦められた北方謙三の「水滸伝」全19巻、
「三国志」全13巻。この2作はハードで切な
くて感動出来る超大作で特に水滸伝は読み
ながらよく泣いていました。

しかし!!これは中国のお話、では日本は?
そこで探し出し出会ったのが司馬遼太郎の
歴史小説の数々でした。戦国・幕末・明治を
扱った作品が多く影響を受けた今では大河
ドラマも見ますし京都に高野山にと歴史人物
のお墓参りにも行くほど歴史好きになっ
てしまいました。ちなみに作品の中では戦国編
「関ヶ原」・幕末編「燃えよ剣」・明治編「殉
死」、人物では265年も続いた江戸時代初
代將軍徳川家康、静岡県をお茶の産地にし江

戸城無血開城の交渉を成功させた幕臣で日
本海軍の生みの親、勝海舟、明治の陸軍大将
で自分の年金を担保に部下の義手を完成さ
せた乃木希典が私のトップ3です。

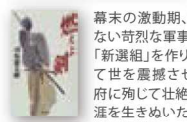
私はたまたま歴史小説にたどり着きました
がジャンルは他にも沢山あります。

どの本でも読んでみると人物の人となりにふ
れ、とても身近に感じ、想像豊かに共感し、読
み終わると心穏やかになれると思います。
皆さんも是非自分のお気に入りの本に出会っ
て下さいね。

<花田先生おすすめ司馬遼太郎の歴史小説>



古今最大の戦闘となった天下分け目の決戦
の過程を描いて、家康・三成の権謀の渦中
で命運を賭した戦国諸雄の人間像を浮彫り
にする。



幕末の激動期、類
のない奇烈な軍事集団
「新選組」を作り上げ
て世を震撼させ、幕
府に殉じて壮絶な生
涯を生きた土方
歳三を描く



明治を一身に表徴す
る將軍乃木希典。ひた
すらに死処を求めて、
ついに帝に殉じた武
人の心の屈折と詩魂
の高揚を撰察した評
判の名篇



坪田の ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE 坪田 陽一 先生 (諸口教室)

諸口教室の個別指導には、結構勉強の苦
手な子が集まっています。その子供達を指導
している先生が山田先生と安積先生。様々な
工夫をしながら指導にあたってくれています。
なかなか単語を覚えられない生徒にコツを
教えたり簡単なテストを作ったり、やる気
が出ない生徒にどう接したらよいか、どうしたら
成績が上げられるか、社員の先生にも相談し
ながら一生懸命考えてくれています。もちろ
ん、学生ですから未熟な部分はありますが、
こんなに熱意を持って教えてくれる、いい
先生がいて生徒達は幸せだと思います。

ところで、「いい先生」ってどんな先生なの
でしょうか。この原稿を書いているときにふ
と思い、色々和今まで読んだ本を開いたり、
ノートを見返したりしてみました。最近読んだ
本からは中室牧子氏の「『学力』の経済学」か
ら、この本は「データをもとにして教育を経済
学的に分析する」ことで得られた様々な知見
を示し、教育にも科学的なデータに基づく政策

決定が必要だと主張されている本ですが、その
第5章が「いい先生」とはどんな先生なの
か」というそのものズバリなタイトルです。その
中に、「ある子供を、他の子供や集団と比較す
るのではなく、過去のその子自身と比較して
昨日より今日、今日より明日と伸ばしてやれる
先生こそが『いい先生』なのです。」と書かれ
ています。当たり前の結論かとも思いますが、
厳密に科学的なデータに基づいた上での記
述なので説得力があります。もう一つ、私が塾
講師を始めたころに読んで影響を受けた本と
して、大村はま氏の本があります。著者は73
歳まで現役で国語教師として活躍された方
で、教育関係者の中では有名な先生なんです
が、その中の著書「教室に魅力を」に「教室の
魅力とは・・・どの子にも確かな成長感
があること」という一節があります。結局、科
学的にも実践的にも、一人一人を現在より少し
でも伸ばしてあげられる先生が「いい先生」と
いうことです。

私は高校生の時、地味で目立たない生徒で、
成績も下位を低迷していましたが、高2の時
の数学の授業が転機になりました。その時の
先生は、熱血でも面白い話をするでもなく、た
だただ数学を分かりやすく緻密に教えてい
るだけでした。一回、確か数列の授業だった
と思いますが、たまたま「1ではなく-1を代入
したらよい」と思いつき、ノートにそう書いて
いたら、その場で指名され、答えることがで
きました。他に当てられて答えられた人がいな
かったので、授業後に当時ちょっと気になっ
ていた女の子から「すごいね。」などと声をか
けられたりして・・・これが全てのきっか
けではありませんが、高2の頃から数学の成
績が飛躍的に伸び、数学自体にも興味を持ち
出したのは事実です。このような些細なこと
でも「成長している」と感じさせてあげられ
るのが、いい先生なのだと思います。私達もそ
んな成長の実感を常に与えられるように、
日々努力していきたいと思っています。

